千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第43週（10/25-10/31）の発生は？

1　定点報告対象疾患（五類感染症）

報告のあった定点数		43週	42週	41週	40週
	小児科	16	16	16	16
	眼科	5	5	5	5
	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	26	26	26	26
	基幹定点	1	1	1	1

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市 注意報	10/25-10/31 43週	10/18-10/24 42週	10/11-10/17 41週	10/4-10/10 40週	千葉県 10/18-10/24 42週
小児科	RSウイルス感染症		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	7 0.05
	咽頭結膜熱		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.03
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		11 0.69	2 0.13	8 0.50	13 0.81	78 0.60
	感染性胃腸炎		38 2.38	29 1.81	27 1.69	23 1.44	177 1.36
	水痘		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	10 0.08
	手足口病		1 0.06	0 0.00	0 0.00	2 0.13	18 0.14
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.02
	突発性発しん		6 0.38	13 0.81	15 0.94	10 0.63	45 0.35
	ヘルパンギーナ		3 0.19	0 0.00	3 0.19	1 0.06	21 0.16
	流行性耳下腺炎		1 0.06	0 0.00	1 0.06	0 0.00	8 0.06
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.01
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.40	8 0.24
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2　全数報告対象疾患（15件）　※新型コロナウイルス感染症10件は件数のみ

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	30歳代	病原体の検出等	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
腸管出血性大腸菌感染症	男性	30歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	梅毒	男性	50歳代	血清抗体の検出
				新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代～90歳代	病原体遺伝子の検出等
レジオネラ症	男性	70歳代	病原体抗原の検出	－	－	－	－

・第43週は、　結核1件（116）、腸管出血性大腸菌感染症1件（24）、レジオネラ症1件（8）、梅毒2件（40）、新型コロナウイルス感染症10件（16,336）の発生届があった。

※　（）内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数　第43週のコメント

調査対象の全ての感染症について、過去10年の同時期と比べて平均未満又は発生報告がなかった。

■ トピック ■

＜カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症＞

第42週時点の全国レベルの届出累積数は1,585件で、過去7年の同時期と比べると2019年の1,763例及び2018年の1,705例に次いで多くなっています。都道府県別では、東京都が157例で最も多くなっており、次いで大阪府146例、愛知県127例の順となっています。千葉県は43例であり、全国で11番目に多くなっています。

千葉市では第42週に市内の医療機関から1例の届出があり、本年の届出累積数は15例となりました。過去7年の同時期に比べると2018年に次いで多くなっています（図1）。内訳は男性11例（73.3%）、女性4例（26.7%）で、60歳代以上が14例（93.3%）となっています。

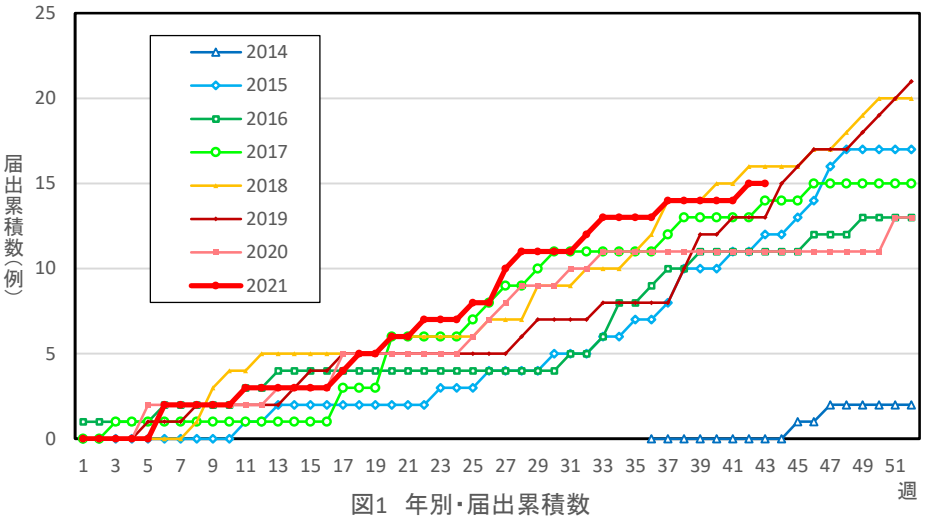

図1　年別・届出累積数
2014年第36週-2021年第43週

2014年9月1日から2021年10月24日までに届出されたCRE感染症は116例であり、そのうち死亡例は2例（1.72%）、海外渡航歴がある症例は1例となっています。2019年まで増加傾向を示していましたが、2020 年に13例に減少しました。2021年は再び増加に転じ、第43週時点で2020年を上回っています（図2）。男性は81例（69.8%）、女性は35例（30.2%）、診断時の年齢中央値は70歳（範囲 0-90）であり、40歳以上が107例（92.2%）を占めています（図3）。

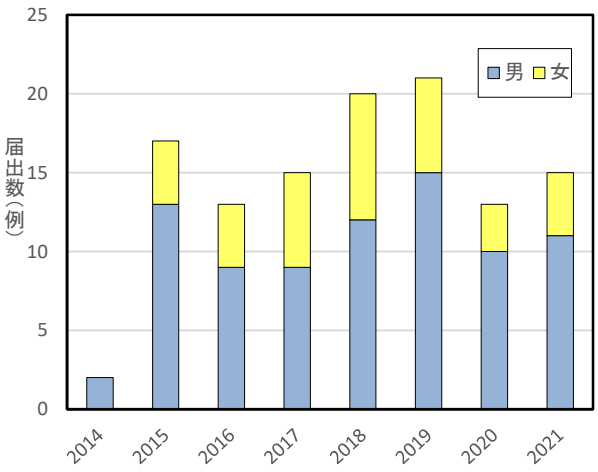

図2　届出数・年別
（2014年第36週-2021年第43週 n=116）

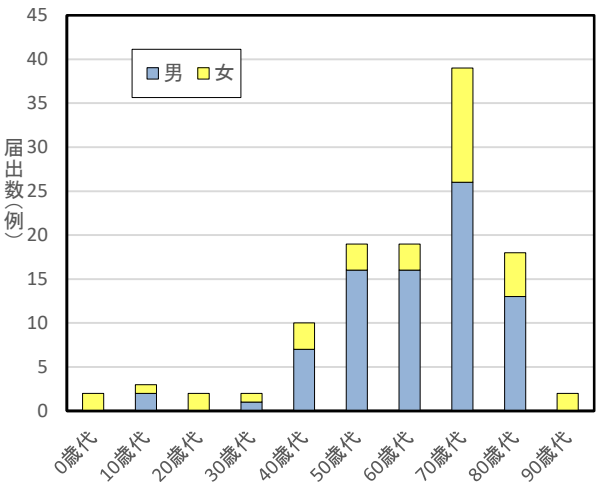

図3　年齢階級別
（2014年第36週-2021年第43週 n=116）

分離検体は、血液が30例（25.9%）と最も多く、次いで尿21例（18.1%）、膿19例（16.4%）の順となっています（表1）。菌種は、*Enterobacter aerogenes* 53例（45.7%）が最も多く、次いで*Enterobacter cloacae* 44例（37.9%）が多く報告されました（表2）。各年の検出される菌種の割合は、2017年を除き*E. aerogenes*が高い割合で検出される傾向が続いており、2021年も同様となっています（図4）。

表1　分離検体

検体名	届出数	割合
血液	30	25.9%
尿	21	18.1%
膿	19	16.4%
喀痰	13	11.2%
胆汁	8	6.9%
腹水	8	6.9%
ドレーン廃液	4	3.4%
髄液	2	1.7%
便	2	1.7%
その他	9	7.8%
計	116	100%

表2　検出された菌種

菌種名	届出数	割合
Enterobacter aerogenes	53	45.7%
Enterobacter cloacae	44	37.9%
Serratia marcescens	3	2.6%
Klebsiella pneumoniae	3	2.6%
Citrobacter freundii complex	3	2.6%
Citrobacter braakii	1	0.9%
E.coli	1	0.9%
E.coli（NDM-1産生）	1	0.9%
others	2	1.7%
不明	5	4.3%
計	116	100%

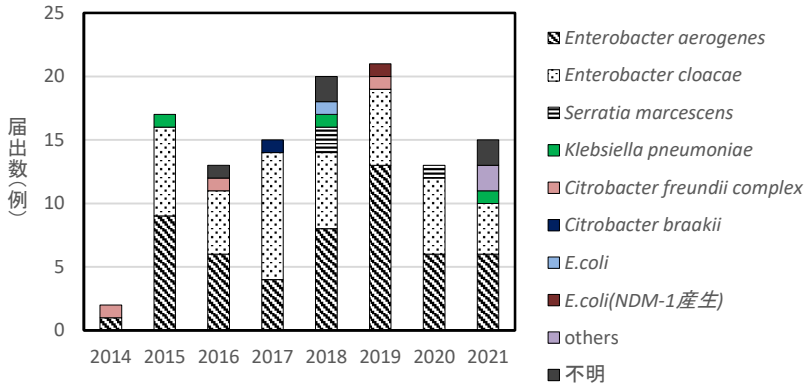

図4　検出菌種
（2014年第36週-2021年第43週 n=116）

2017年の厚生労働省通知により、医師からCRE感染症の届出があった際には、医療機関等に対し当該患者の検体又は当該患者から分離された病原体の提出を求め、耐性遺伝子等の試験検査を実施し、検出された薬剤耐性菌の状況及び耐性遺伝子等検査結果について、当該地域の医師会及び医療機関等に対し、定期的に情報提供を行うこととなっています。

千葉市環境保健研究所では、CRE感染症が届出対象となった2014年から薬剤耐性遺伝子の検索を開始していますが、現在はこの通知に基づいた検索を実施しており、また当センターではその結果を毎年公表しています。詳細は当センターのWebSiteをご参照ください。

最新版：
https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/cre2020.pdf